

小野修一の経営お役立ちコラム 第5回

● マネジメントシステム構築で業務改革を

マネジメントシステムがPDCAを回すことであるのは、皆さんご存知のことと思います。ある経営目的を実現するための取組みを、PDCAを回すことで确实かつ効率的に行おうということです。次のようなマネジメントシステムの規格が多く組織で使われています。

業務品質を高めるためのマネジメントシステムが、ISO 9001。

環境保護対応のためのマネジメントシステムが、ISO 14001。

情報セキュリティ対策のためのマネジメントシステムが、ISO 27001。

ITサービス提供・活用のためのマネジメントシステムが、ISO 20000。

個人情報保護のためのマネジメントシステムが、JIS Q 15001。

マネジメントシステムを構築するということは、経営目的を実現するための取組みを効率的、効果的に体系化することです。明確な方針・戦略を立て（P）、実効性の高い計画に展開し（P）、計画を着実に実行し（D）、実行した結果と計画との差異を検証し（C）、差異や新たな課題に対する対策を講じる（A）、そのサイクルを継続的に回し続けることです。

そのアプローチは、業務改革に通じるものです。マネジメントシステム構築を規格に準拠した仕組み作りだけに止まらず、組織の業務改革の一環としてとらえることで、取組みに対するモチベーションも違ってきます。

マネジメントシステムの構築で業務改革を実現しましょう。